

仙台城造酒屋敷跡の調査

～仙台城造酒屋敷跡について～

仙台城における造酒屋敷の歴史は、慶長13(1608)年、伊達政宗が大和国(現在の奈良県)出身の酒造り職人 又右衛門に、土地と屋敷を与えた事に始まります。この際、出身地にちなんで「榎森(かやのもり)」の名字を与えられた又右衛門とその子孫は、藩の御用酒屋として、明治9(1876)年に廃業するまでの269年間、この場所で酒造業を営みました。

市教育委員会では、途中、東日本大震災による中断を挟みましたが、平成20年から計5回の発掘調査を行いました。その結果、屋敷を構成する建物跡や酒造りに関わるとみられるカマド跡や井戸跡のほか、「榎森」銘のある荷札木簡や、生活の様子をうかがわせる陶磁器、木製品、金属製品などが発見されました。



図1 位置図

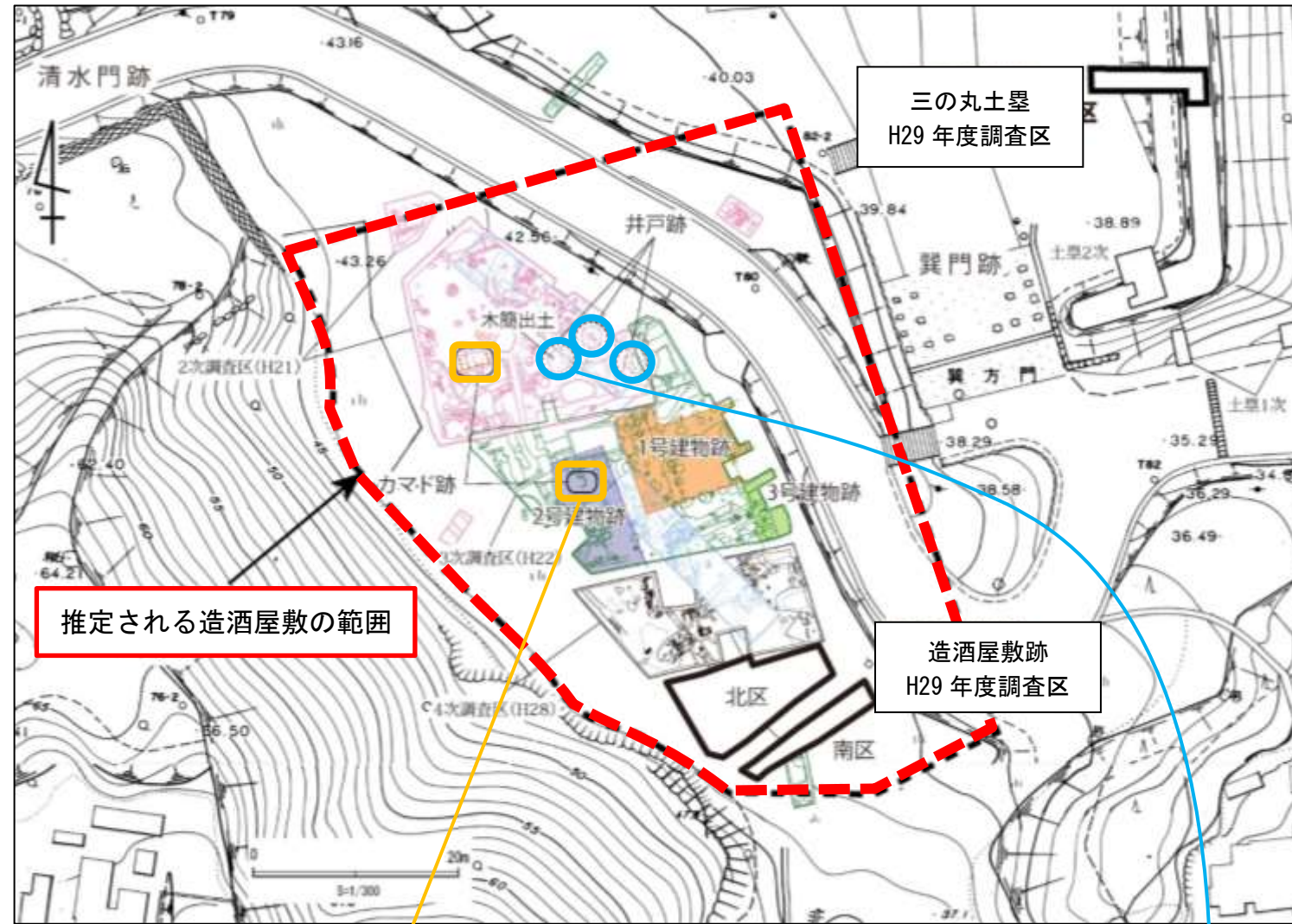


図2 これまでの調査区



図3 米を蒸したとみられるカマド跡



図4 井戸跡(木簡・木製品等が多量出土)



図5 主な出土遺物

「榎森」銘のある木簡

樽の把手(とって)

大堀相馬産陶器小坏 18世紀

ハサミ

御酒塩五升

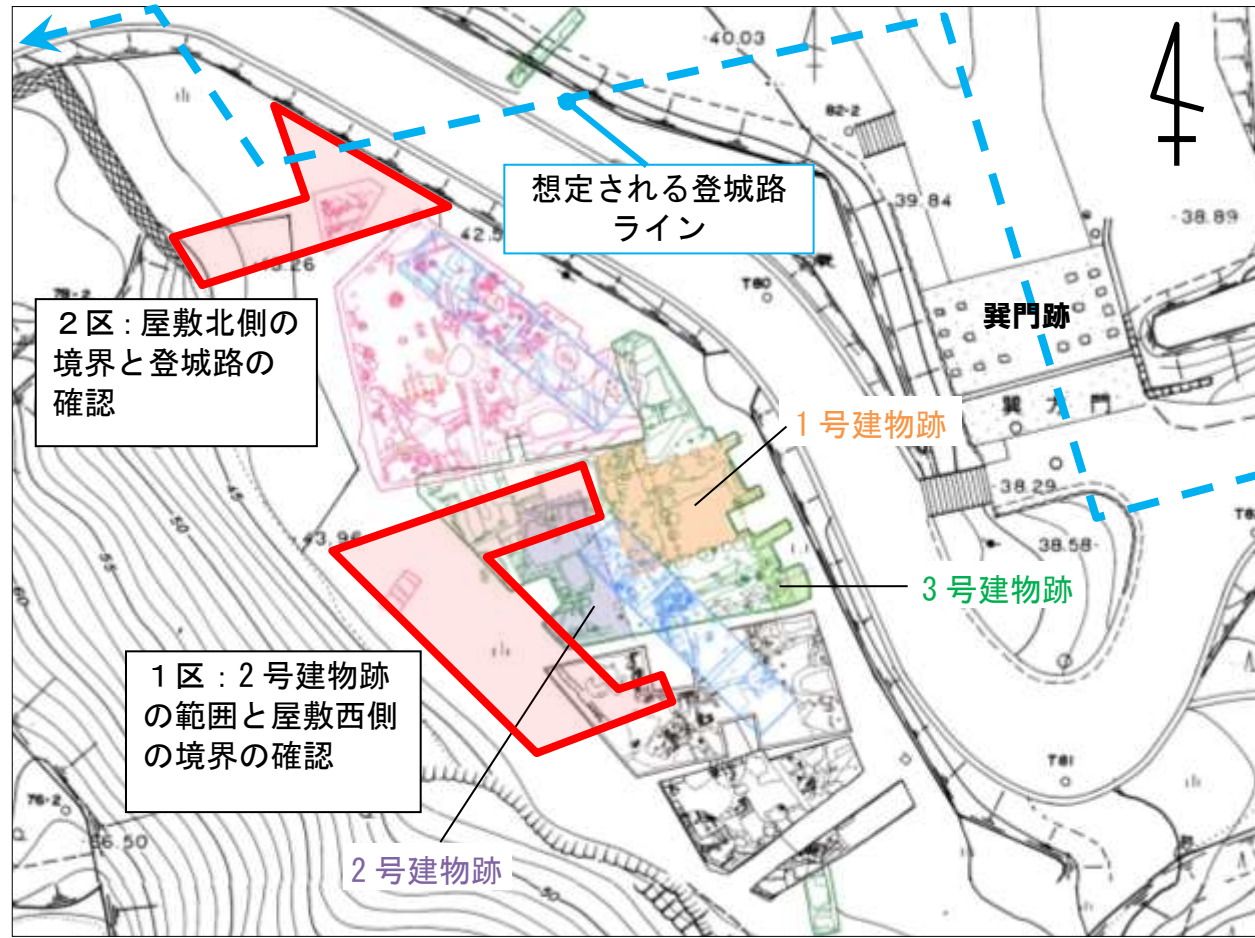


図1 造酒屋敷跡 平成30年度調査区 (第6次調査区)

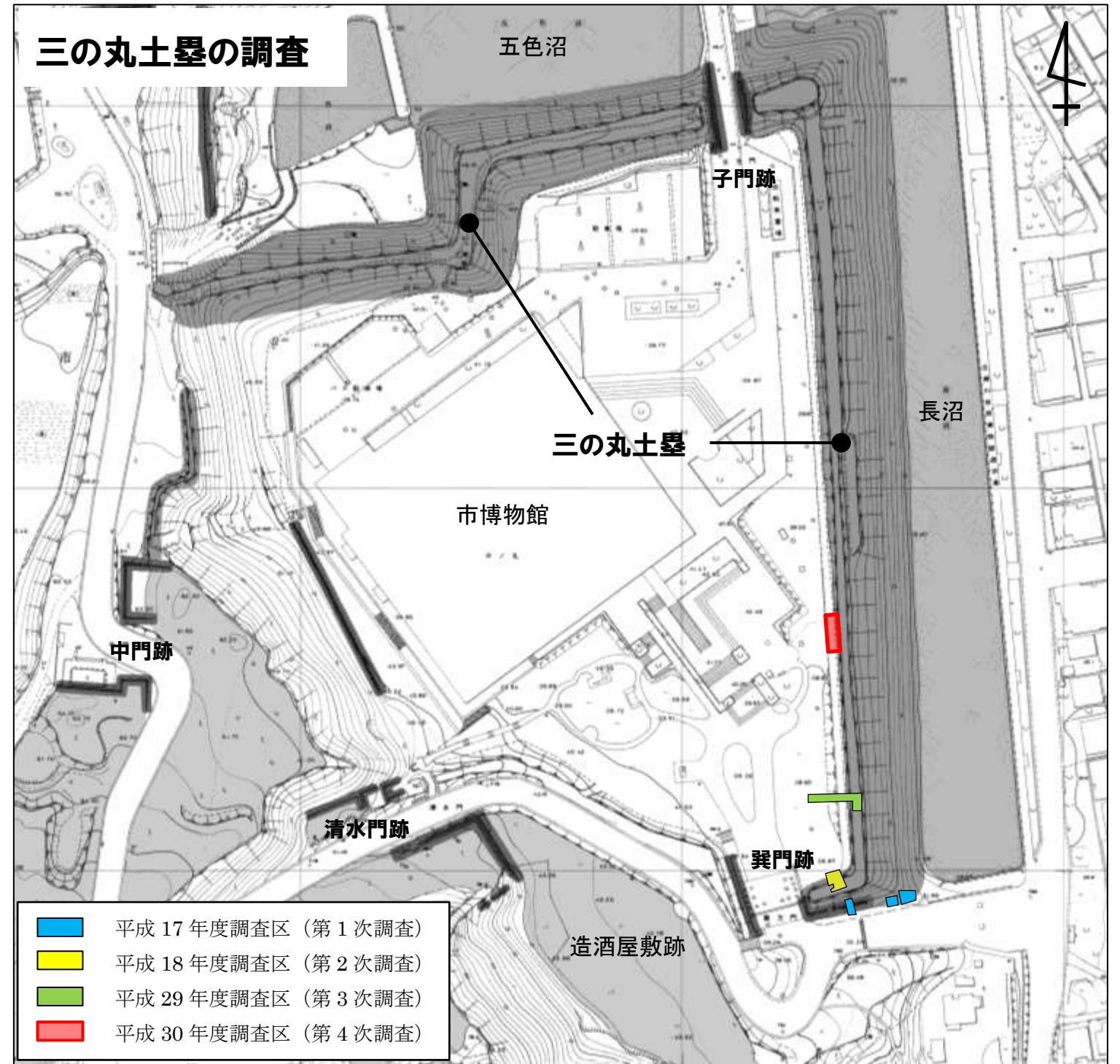


図3 三の丸土塁 平成30年度調査区 (第4次調査)

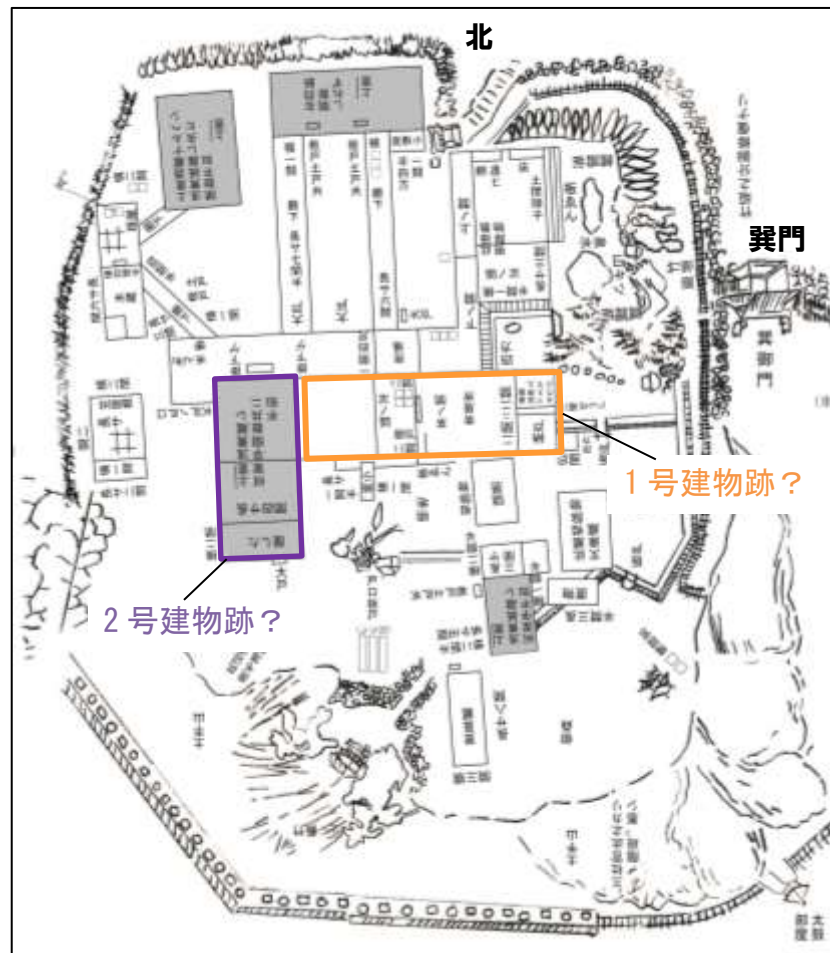


図2 「仙台城内榎森御酒屋之図」(『伊達家史叢談』<大正10年刊行>より作成)

※網掛け部分は、藩が管理する公的建物

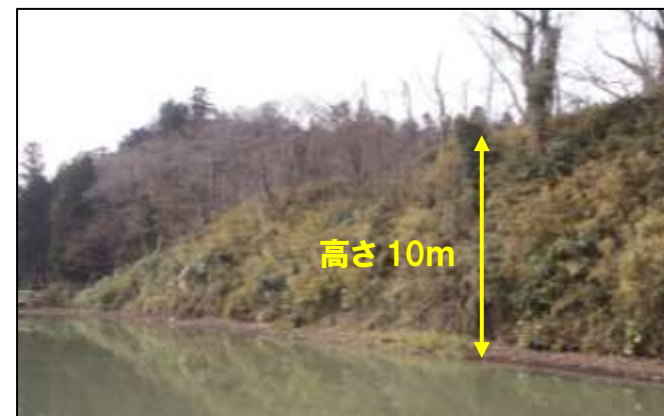


図4 長沼側から見た三の丸土塁



図5 土塁積み土の断面 (第3次調査)



図6 土塁頂部の様子 (第3次調査)